

総合事務所産業建設グループ集約で論戦

総合事務所の所管区域は事実上の変更、関係条例の「改正」もせず獲得しているのか

3月議会の一般質問で私は、小型除雪機事故対策、総合事務所の産業建設グループ集約問題、そして公民館の運営及び配置に関する基本方針案の3つをとりあげて、市長や教育長の見解をただしました。

小型除雪機事故、8年間に60件も

小型除雪機については18日も松之山で57歳の方がなくなるなど、今冬も各地で事故が相次いでいます。市内では死亡事故には至らなかつたものの、機械の下敷きになる、衣服を巻きこまれるなどの事故が7件発生しています。私は、小型除雪機の所有状況、事故実態を訊くとともに市長会などで本格的な事故対策を協議するよう求めました。

答弁の中で市長は、合併後8年間に市内で3人の方が亡くなり、57人の人たちが重軽傷を負ったことを明らかにしました。



事故にあつた人たちの約7割は65歳以下の人だということです。また、事故原因ですが、「投雪部の雪詰まりを取り除く際に、エンジン止めず

に作業を行ったため回転部に手を挟まれて負傷された事案が約半数」を占めていたそうです。今後は、市民への事故防止の呼びかけなどいままでの取り組みに加え、新たに、事業者等との協力も検討していきたいと答えました。市長会での問題提起については、私の説明不足だったのか、理解してもらえませんでした。

災害初期対応やまちづくりに不安

13区の総合事務所は4月から4つのグループに分けられ、柿崎、浦川原、板倉の各総合事務所、木田庁舎に産業建設グループ職員を集約します。この取り組みは1年間試行し、来年4月から本実施するとしています。この取り組みで、柿崎、浦川原、板倉の3区総合事務所以外では職員が激減し、災害発生時の初期対応やまちづくりがどうなるのかという不安や懸念の声が出ているか、そして試行段階で市民サービス低下がはつきりしたら本実施は見送るべきだと主張し、市長の見解を求めました。

これに対して市長は、「災害発生時におきましては、まさに総合事務所と木田庁舎の関係課等の間において機動力を発揮した対応が図られることが可能」となる、「災害時における職員の参集方法を見直すなど、体制の充実も図つた」と答えました。地域づくりの関係では、「各区の特色や独自性を確保することを基本とし、その上で、広域的な視点に立って、それぞれの地域が持つ資源等を最大限に発揮し、相乗的な効果を得ることのできる地域施策を企画し、推進してまいりたい」と答えました。私は災害発生時の職員配置や指揮命令がどうなるかを

をただすとともに、まちづくり

については第5次総合計画づくりの時に

各区で議論して決めた地域

別計画を戦略的

計画として位置付

け、推進していくべきだと提案しました。

総合事務所産業建設グループの集約問題では、「地域自治区設置に関する条例」の改正を

せまりました。

同条例の7条には地域協議会の権限について

書かれており、「地域自治区の事務所が所掌する事務に関する事項」についても自主審議できるとされています。

柿崎、板倉、浦川原の集約総合事務所の所掌事務の範囲はこれまでの区内

だけでなく、他区にも及ぶことになりましたが、私は総合事務所の所管区域の変更など「改正」措置をとらないと矛盾が生じると訴えました。

これにはまともな答弁が返ってきませんでした。最後は、試行に入る前に法的な整備をするよう求めましたが、このままですと試行に入っていくならば、大きな問題となること必至です。

「方針の変更ありうる」と教育長

公民館の運営及び配置に関する基本方針案について私は、「まずは、公民館の果たすべき役割と活動方向についての議論を先行させるべきだ。『分館施設等の再配置』に関する基準を決めるにあたって、関係住民との話し合いはしてきたのか。また、今後の話し合いの中で変更もありうるのか」などを教育長に問いました。

教育長は、「広く市民の皆様のご意見を聞く。必要があれば教育委員会でご意見を聞き、必要手続きを経て決定する」と答弁しました。



【キクザイイチゲ】雪割草と同じく早春に咲く美しい野の花です。16日、吉川区代石で撮影。

そうか、こんなふうにしぼってあったのか。ずっと気になっていた結びを間近で見ると、やっと気持ちに一区切りつききました。「気になっていた結び」というのはわが家の牛舎脇のハンノキにぶら下がっていたヒモの結びのことです。

大きく生長したハンノキの幹に二本のヒモがぶらさがっていることに気付いたのは昨年八月、盆支度をしているときでした。ヒモは寒冷紗（かんれいしゃ）をつるために父が用意しておいたものです。わが家では牛舎に強い陽射しが直接当たるのを防ぐために、以前から寒冷紗を使っていました。

昨年、ヒモに気付いた時、ヒモの一本を軽く引くと、木の上の方でヒモがするりと解（ほど）けることがわかりました。父がこのヒモを木の枝にくくりつけたのは、父がまだ牛舎で仕事をしていた頃ですから、七、八年前です。長期間にわたってヒモが解けるようになったままの結びがどんなものなのか、自分の目で確認しておきたい、そう思って、結びは完全に解かないでおいたのです。

ハンノキに登ったのは青空が広がった日の午前です。木の根もとにはハンノキの実や花穂が数え切れないほどたくさん落ちていました。牛舎から持ちだした梯子を幹にかけ、木の枝があるところまで行き、そこから先は枝につかまりながら上へと登りました。ヒモが結んでいる木の枝は地上から五メートルほどの高さのところにあります。たどり着くと、牛舎の屋根を越えて風がそよそよと流れてきます。私の近くにある枝の先に残っていた花穂が揺れていました。

ヒモは直径二〇センチほどの枝に結んでありました。かなりの年月が経っているのに、ヒモは少々色あせていましたが、ヒモ自体はまだしっかりしています。枝にくくりつけた部分は枝に食い込んでいました。結びのところは一〇センチほどの輪がぼこぼこ出ていて、下に伸びたヒモを引くと輪が小さくなり、ほどけます。なるほどなあ、うまく結んであるもんだと感心しました。

結びの確認をし、何枚か写真に撮ってから、木の上の方を見てみました。うーん、高い。まだ一〇メートルは上に伸びています。枝も横に大きく広がっています。下の方の枝は四メートル以上の長さです。この大きな木が青空を突き刺すようにどんと立っているのです。まさに堂々としていました。

ただ、木の肌は老化が進み、表面はかさぶたのようになっていました。手で引つ張ると、ぼろぼろととれます。それと登ってみて初めてわかったのですが、下の方の枝は木の幹から出たというより、外から無理やり棒を押し込んだ感じになって見えませんでした。また、木のくぼみのところから新しい枝が伸び始めているのも見つけました。ひよつとすると、くぼみに実が落ち、そこで発芽したのかもしれない。

木の上から見る景色は久しぶりです。近くの畑は雪解けが進み、ほとんど雪がありません。暖かい陽射しのなかで散歩をしている人たちの姿も見えました。左手を後ろに回し、右手を大きく振って歩くHさんが小苗代方面からやってきて、代石方面から歩いてきたMさんと牛舎の近くで会おうと、「好い天気だねえ」と言葉を交わしています。のどかな景色を見てうれしくなりました。

木から下りる時、ヒモをどうするかを再び考えました。枝に食い込んでいたところは少しゆるめました。でも、ヒモを完全に取り去るのは今回もやめました。死んだ父が遺した仕事の足跡はやはりそのままにしておいてあげたい、そう思ったからです。

緊急除排雪支援などで 質問…総務委審査続報

市の新年度の重点施策の一つは中山間地域の振興です。中山間地域の集落に住む人たちの暮らしを守り、集落機能を維持していくために、新年度の地域振興事業費は前年度より

も約5000万円増額され、9353万円が計上されました。かなり思い切った施策が打ち出されているので、この点を評価した上で、新規に取り組む緊急除排雪支援と地域おこし協力隊の導入について質問しました。

緊急除排雪支援は、雪で家屋やそこに住む人に重大な被害が出そうだという緊急事態の時は、総合事務所



長（旧上越市の区域にあっては自治・地域振興課長）の判断で除雪作業員の派遣や重機の貸し付けを行うというものです。

委員会資料に、「既存の支援策の活用によってもなお自力の除雪が困難」の場合に支援すると書いてあったので、「緊急事態では即救助が必要だ。柔軟に運用すべきだ」と主張しました。これに対して塚田自治・地域振興課長は、「目の前に生命、財産に危害が及ぶ方がおれば理屈を問わず手を差し伸べる。あとの整理としては要援護世帯除雪費助成制度や法適用できるかど

うかということがあるかも知れないが、まず救うことが最優先だ」と答えました。この姿勢は重要です。

地域おこし協力隊は今年の10月をめどに大島区の菖蒲地区と吉川区の川谷地区に三大都市圏などからそれぞれ1名ずつ導入する計画です。

私から「どういう人を必要としているか」問われ、塚田課長は、菖蒲地区では深山そばと飯田邸を活用した地域おこしをリードする役割を、川谷地区では農業の担い手として役割を担ってほしいと考えていると答弁しました。また、「ある意味では隊員を支える仕組みも必要ではないか」との質問には「その点、重要だと思っている」とのべました。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	3月13日(水)	3月20日(水)
上越南消防署	0.026	0.040
上越北消防署	0.040	0.047
新井消防署	0.037	0.047
頸北消防署	0.046	0.043
頸南消防署	0.043	0.047
東頸消防署	0.043	0.043
高士分遣所	0.043	0.047
名立分遣所	0.060	0.060